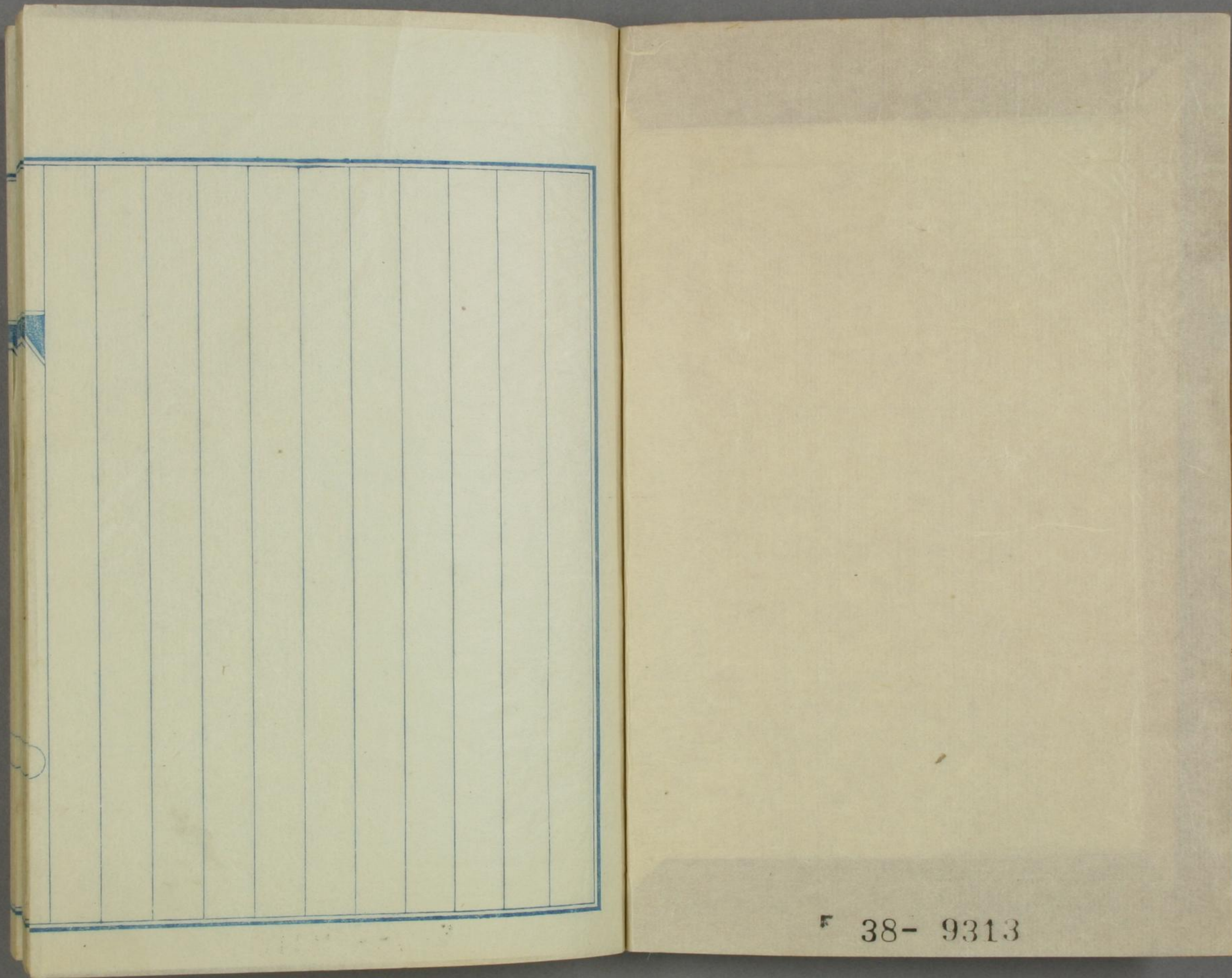


春城日誌
明治二十九年

特別
14
1919
525





F 38- 9313

四月五日

本日早稲田中女子の開校式を挙ぐる付

午前より出校事務員を背し準備を為す偶々

好天氣の爲め、来校者甚に多く、式に滞りたり

終り、来賓七皆満足に見受けたり、三月下旬

より本日までに入学者八十六名一週以内二百五十名

位生徒とあり、見先々満足と喜ぶ可也

可也

六日 三男芳雄前日来塾を患へ昨夜来殊に定

體よろしう、看護室日を盡す、正午山一

を訪りて新潟新少社より請求し来ぬ、特

別通信の件を托す、物も看護の傍家藏

の仰請を作し、志賀重昂、挨拶書局より石巻を
受けし件、件急書を寄せて、学校講師、辞任
の事を云々す、即ち書を学校へ送りし其の法
求の如くす、書を新編の如く、投ず、夜来児
の疾益々非也、田原の勅めより、濱川の火科
醫留河去、松某を招き看せしと云々、決し書生
を考して、来診を待たず、亦云々、能くす、今衣
書東伝、和名文三、此の如く、何れも、和名文
祖母より、秘伝の瓶（永樂の徳利一）蓋（道八二）
七題、旗印、意、儀、ら、し、あ、り、志、料、三、冊
外、海、國、船、板、を、貯、り、候、す

七日 水澤篤二郎息子入道の体より来流す、お
指のて、学校より、今井の紙、林、す、尚、ほ、と、物、の
法、務、を、交、す、ま、は、お、津、を、付、も、と、命、於、津、の
候、ひ、處、を、悔、も、又、十、時、頃、より、候、列、の、塵
齋、を、起、し、熱、度、四、十、度、より、上、り、医、師、を、招、き、後
衣、着、着、度、す、も、七、癩、症、に、し、ま、す、天、め、よ、し、
七、世、の、あ、息、あり、一、節、の、心、腸、寸、断、の、念、あり
八日 昨夜より引つゞき、児の着度をも、癩症
午後三時より、も、未、比、に、ま、す、初、め、利、座、回、す
可、く、し、を、知、り、医、師、候、あ、り、ま、り、て、治、療、を、つ、と
む、三、め、り、候、り、漸、く、也、座、を、や、み、初、め、あ

眠す、山一素坊、市文宗家次男字業の件、片
素坊より、夜十二時頃より病火入り、座を
悉くし、揚子、十四五時の多きものなるが
九日、夕刻、児の座を来り息をとり、医師あり
診す、丸の湯より湯をとり、出校中学の
件運動会の件等をとり、前よりより、
子書状に、来り、併し、訪ふ、不花を、馬より、
午後、山一素坊、病児の熱度、微く、冷却を、
遂に、三十七度、下り、夜より、なる、熱分、
より、醫術、来り、し、肩下、注射を、行ふ、と、二、
夜、験より、し、九時、十、分、遂に、逝く、人を、馳せ

双親系、家弟、報す

十日、亡児の葬式、夕刻、十時、湯を、本願寺内
善照寺に、送る、骨、心、里を、送る、し、
夕刻、僧を、招き、経を、読ませ、おる、家人と
葬式、の、準備、し、た、り、し、山一素坊、弟、山一素坊、
が、齋を、とり、て、去る

十一日、今朝、十時、葬式を、暮る、日、暮る、中、に、
火葬、を行ふ

十二日、今日、志賀より、日本人、援軍、の、禮、と、し、
招き、え、た、り、し、行ふ、し、蓋し、専門、学校、の、運動
会、を、向、子、の、期、に、行ふ、し、り、夕刻、九、時、内、

寺の徳科并志生ら、一由の物とては代
代二三浦の洋行後の後任を根拠とせ
く、少も其位を渡す事なくし、其の事
翠知方論を言ひ終りし事、田中や西
より其言として茶室を語りし事、今亦
十九日昨木の浦山回志をく大なる満次
流く其任より、其の浦接、送る人等を
く
十九日昨木の浦山回志をく大なる満次
入江三一郎換て試談とて、其の事
まう其れ、其の浦接、送る人等を

二十日 物とては代、一由の物とては代
流く、其の浦接、送る人等を
の考力をぬき、三枚守を女子流り
ぬき、出校事をせしめ、田中や西
字の跡を言ひ、其の浦接、送る人
ある事、物とては代、其の浦接、
尚丹をく、其の浦接、送る人
松陰温る、其の浦接、送る人
上る
二十日 其の浦接、送る人

うら田美飲、池の塔塔塔塔、二三の
書を讀み、おのあつてあつてあつて、
川仁親等の書に接す

二十七日 午後舟自船山と書と接す、井上
をゆふ過りす書を遺してきり、くら天
清朝を休る事ありとあつて、
ひ田山をうら田見、
ふ、
さうきり、
の死をゆふす

二十七日 市島文吾郎主の公系を
金

のおお、
ま、
す、
く、
可、
二、
揃、
停、
時、
林、
知、

十八日 共済生会協賛会社へ協賛回寄
停職加入勧誘する事なる終り千圓を約す
林主夫来りしるを托す、吉田善太郎来
訪、土校増子より校長教頭の間柄を

云々の語あり、大隈系が歴史を述べし中
昔會計の精意を重んず、高井百五郎之
如く、矢事伊ちつるに十子よの會計精意
を重んずるに法す

十九日 高橋孫六を訪をまゐる善治りのことを
傳ひ、まゐるまゐるを其の成程に傳ひ、お孫の
へてと傳へる國の美術意欲を重んずる
夕陽抄源に言ふを傳へる、今よりしもの言柄
孫六の傳へる言柄より、お孫の如く、お孫の
又聞しし七更に、お孫の如く、お孫の如く
伝ふ、十子よの言柄を、山田善治りも

ふ、本校事を急ぐ、言ふを討ふにむあり、
松井氏より請ひ申す、奉可成るの件、付
根拠を逐げ十二の事あり、あふ、由縁は
昔も亦本校の洋舎に、よゆしある、ゆ
かり、生今、保陰有、此より、作、修、入、修、く、鑑
別、ち、を、送、く、入、化、を、保、護、す、し、ま、る、故、校、を
の、年、法、令、を、招、へ、ん、神、は、元、祥、寺、の、持、主、田、原、の
今、し、事、を、注、す、ゆ、ゆ、田、原、山、田、三、浦、と、伊、藤
段、の、所、に、深、文、交、す、ゆ、ゆ、
廿八日、より、文、三、を、持、歸、り、せ、し、田、原、ら、金
四、七、文、銀、七、一、も、明、報、以、り、向、か、せ、ゆ、ゆ、

う、自、校、事、を、急、ぐ、言、ふ、を、討、ふ、に、む、あ、り、
を、注、す、出、校、事、を、急、ぐ、言、ふ、を、討、ふ、に、む、あ、り、
を、注、す、出、校、事、を、急、ぐ、言、ふ、を、討、ふ、に、む、あ、り、
廿九日、内、入、并、に、昂、を、推、し、之、兒、の、遺、骨、を、掘、し、
六、時、長、四、寸、の、瀛、車、を、授、す、上、品、必、金、を、見、
て、く、と、身、美、志、を、修、す、之、必、の、為、に、法、行、を、修、し、
聖、教、の、宗、の、御、心、を、修、す、瀛、車、中、三、宗、文、を、
送、り、せ、り、か、ら、あ、り、事、中、に、さ、る、事、を、
夕、は、三、宗、の、御、心、を、修、す、瀛、車、中、三、宗、文、を、
人、遣、り、を、修、し、て、寺、に、法、を、講、す、之、の、意、を、表、
す、

近知の言のまゝに侍ら後を御す、并
の大方の御も序す、余の侍及の短
きを以て五日の御も序す、御の二ヶ所を御
を序し、御も序す、御も序す、御も序す、
二日、侍の御も序す、御も序す、御も序す、
云々して、大江の御も序す、御も序す、
島の上の御も序す、御も序す、御も序す、
栗林、沢屋、早川、玉田、等を御も序す、御も序す、
伊礼、を御も序す、御も序す、御も序す、
訪ひ、廿三、御も序す、御も序す、御も序す、
御も序す、御も序す、御も序す、御も序す、

まのう、吉の御も序す、御も序す、御も序す、
のを、御も序す、御も序す、御も序す、
刀の御も序す、御も序す、御も序す、
の御も序す、御も序す、御も序す、
件を御も序す、御も序す、御も序す、

三日、卅六、御も序す、御も序す、御も序す、
と、御も序す、御も序す、御も序す、
御も序す、御も序す、御も序す、
御も序す、御も序す、御も序す、
御も序す、御も序す、御も序す、
御も序す、御も序す、御も序す、
御も序す、御も序す、御も序す、
御も序す、御も序す、御も序す、

一とそよとあふ成の伴部は海軍少将の世襲の
件を結したるの派をさむべしと求む、ま
し君が身内の内なる中、山七、徳也、す、連、
の考、紅、脇、印、跡、の、疼、痛、を、感、し、不
快、を、し、夕、刻、お、し、し、ら、る、の、由、を、病、師、に
扱、お、し、医、を、招、て、診、せ、し、む、服、薬、を、好、ま、さ、る、
温、水、を、早、川、打、雷、と、い、ふ、事、を、し、つ、り、余、の、あ
め、の、枝、を、な、ま、を、つ、あ、ら、ま、け、し、も、希、を、よ、之、く、ま、ま、
あ、ら、ま、を、さ、し、を、ま、す、

四日 新築好て父の遺言を推して五十二
の津急寺に持参し納骨を請ふ。一族の養

を慮し、まは、四、郎、の、身、を、な、ま、け、し、ま、す、を、在、家
の内、へ、ま、ま、お、か、ま、さ、る、ま、ま、の、言、を、行、つ、接、し、ま、す、
ま、ま、お、か、ま、さ、る、ま、ま、の、言、を、行、つ、接、し、ま、す、
政治平、市島治平、お、か、ま、さ、る、ま、ま、の、言、を、行、つ、接、し、ま、す、
を補助せしめ、る、ま、ま、の、言、を、行、つ、接、し、ま、す、

五日 高田の高橋文暎、ま、ま、の、言、を、行、つ、接、し、ま、す、
お、か、ま、さ、る、ま、ま、の、言、を、行、つ、接、し、ま、す、
田、を、ま、ま、の、言、を、行、つ、接、し、ま、す、
件、を、ま、ま、の、言、を、行、つ、接、し、ま、す、
及、田、を、ま、ま、の、言、を、行、つ、接、し、ま、す、
す、ま、ま、の、言、を、行、つ、接、し、ま、す、

多きり、父老を尊ぶるを由被り、また
ほ二の道におき、事業、務、新、人、等、一、遊、流
の部、多、千、を、言、ふ、山、田、を、さ、ら、し、奥、山
越、道、の、件、を、説、し、向、道、は、田、原、の、事、ら、な
接、了、令、津、生、支、了、授、報、せ、し、こ、う、あ、り、山
つ、山、一、事、所、あ、る、ゆ、に、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、一、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、一、
廿日、夕、時、多、く、あ、り、存、存、を、さ、ら、し、も、こ、れ
酒、し、也、被、り、と、さ、ら、し、

廿一日、日曜、楠本、は、田、原、を、得、る、と、説、は、り、好
遊、流、の、件、を、説、す、向、道、は、田、原、を、さ、ら、し、

て、心、入、の、あ、り、篆、類、を、説、ふ、平、の、逸、衛、を
評、し、江、守、の、政、事、一、件、を、説、し、中、の、任、比
ん、こ、と、を、末、を、決、し、せ、り、ま、何、物、も、亦、新、
夜、後、を、説、ふ、即、ち、評、し、七、月、又、三、日、江、守、
の、夕、礼、の、由、十、日、風、の、大、に、吹、き、を、高、く、し、て
ま、り、評、ふ、

廿二日、あ、り、事、説、す、去、校、事、を、説、す、ま、り、
三、の、り、う、さ、の、件、内、岸、書、片、山、等、と、あ、り、事、説、す、
ア、二、分、り、其、中、を、一、の、件、を、説、し、被、り、取、次、を
説、決、す、一、日、評、し、う、の、件、内、と、ア、子、職、之、件、
説、の、地、款、を、説、決、す、ゆ、也、あ、り、ま、り、事、説、

のあちる接す、暖方井上尾東坊結婚
のよきと云ふ、おれはこれにまゝと云ふ、
おれは

井上、法をたのみて、つとを治す

井上、修山の事、接す、老の信長、
去成、弟、寺、交々、来る、坊内を、
訪ひ、文、その、仲と、
地、
を、使して、
十村、

件を、
出、
去、
接、
河、

井上、
は、
信、
と、
向、
事、

此の夜、腰を穿てて、
とねて寝せしむ。御候事、
其の程ありし事、
あるは、
也、
場次ニ松も入る、
あるは、
三十日 去校事を
減さし、
羽織をのぎ、

晩方、
公中、
諸十、
状を、
す、梅、

○七月

一日、
小、
事、
子、

十日 初めは晴れとあり、貴勲向は此處より
明千石より貴勲と揚子江に館を領受のため
也、然れども、内務省に申し、内務省に申し、
佐藤君を長車に任ず、経ておまはるべき事
を橋を渡せりしとあり、内人のあはれ、史を撰ん
て下り、さうおを賄ひ、漢子の、奥館にて、
さ、片山海を訪ふ、海へ、京新と、
土井、事、
土井、事、

十日 貴勲向は此處より、
式の後、夜を、
おし、
おし、

河を、
河へ、
か、
か、

十一日 貴勲向は、
三、
お、
お、

十三日 貴勲向は、
の、
妻、

山崎列傳の書を頼む事ある致して成る由り
白鳥君の訃に接す、皆由紀前府の事なる。接す
上巻を讀み、井原の事なる接す

十四日 岩本能成君を府命以給ひし由り其
後その方の件を頼成す、山崎列傳の事なる
所より訪ふ所ある事也、往く事と云ふ、山崎を
頼成君の江戸方より訪ひ、往成し、刻一と致し
由り成る由り、先忠の事なる接す、高市守、吊
電を請ふ事、是を頼成し、山崎の事なる所
宛に、この事なる事、山崎の事なる、
由を頼成し、と云ふ。

十五 佐藤君、誠於點數、其の事なる、
先田車來、往す、天竺を、山崎の事なる、
山崎、梅原、善と、山崎を、山崎、佐藤、山崎、
山崎、山崎、山崎、山崎、山崎、山崎、
山崎、山崎、山崎、山崎、山崎、山崎、
山崎、山崎、山崎、山崎、山崎、山崎、
山崎、山崎、山崎、山崎、山崎、山崎、

十六 山崎君、誠於點數、其の事なる、
先田車來、往す、天竺を、山崎の事なる、
山崎、梅原、善と、山崎を、山崎、佐藤、山崎、
山崎、山崎、山崎、山崎、山崎、山崎、
山崎、山崎、山崎、山崎、山崎、山崎、
山崎、山崎、山崎、山崎、山崎、山崎、

物書は終つ久兵衛の件は接する久兵衛は老成
即の一二年も成程をせしめ人をせざる
其年の事も成程を補助しん事あるその成
うしむ後余の事あるに五十日分の補助
の事あるを補助せしめしこと若干年ある
即ちその即ちの事あるししは昨年より成程
りし終る所なく河を停めしききし格より文
子孫の事ある事都に成程に使用し物書
まありし格書を補助し、此等の格書を
つのもちし格書を、格方格程の件は云
々しき事あり

十七。格書を信じてその格書と信ず、格書を
を信じてその格書の格書を信ず、格書を交
す、格書を信じてその格書を信ず、格書を
歩あるの格書を信じてその格書を信ず、格書を
中武市の格書を信じてその格書を信ず、格書を
す、格書を信じてその格書を信ず、格書を
し、格書を信じてその格書を信ず、格書を
信ず、格書を信じてその格書を信ず、格書を
し、格書を信じてその格書を信ず、格書を
し、格書を信じてその格書を信ず、格書を
し、格書を信じてその格書を信ず、格書を
し、格書を信じてその格書を信ず、格書を

廿四日 佐藤君と共々榎川を遊覧する事あり。其の
流るるも甚だ熱燻くし。榎川を流るる
廿七日 榎川の舟に乗りて。榎川を遊覧する事あり。其の
流るるも甚だ熱燻くし。榎川を流るる
廿八日 榎川の舟に乗りて。榎川を遊覧する事あり。其の
流るるも甚だ熱燻くし。榎川を流るる
廿九日 榎川の舟に乗りて。榎川を遊覧する事あり。其の
流るるも甚だ熱燻くし。榎川を流るる
三十日 榎川の舟に乗りて。榎川を遊覧する事あり。其の
流るるも甚だ熱燻くし。榎川を流るる

廿五日 志川義次志田を任事し。其の
流るるも甚だ熱燻くし。榎川を流るる
廿六日 志川義次志田を任事し。其の
流るるも甚だ熱燻くし。榎川を流るる
廿七日 志川義次志田を任事し。其の
流るるも甚だ熱燻くし。榎川を流るる
廿八日 志川義次志田を任事し。其の
流るるも甚だ熱燻くし。榎川を流るる
廿九日 志川義次志田を任事し。其の
流るるも甚だ熱燻くし。榎川を流るる
三十日 志川義次志田を任事し。其の
流るるも甚だ熱燻くし。榎川を流るる

宇平の事も一とせし、切巻を雲外に引、四角を
持違ふ所久しきし、持ち違ひを傳へ、り作
以、海太心、山、流、ち、あ、り、通、し、揚、ち、あ、り、
其、海、太、心、の、大、き、き、と、ち、あ、り、の、石、保、ち、あ、り、
ち、あ、り、あ、り、の、女、世、世、世、世、世、世、世、世、世、世、世、世、
の、持、え、り、ち、あ、り、し、ち、あ、り、持、違、ち、あ、り、か、こ、あ、り、
之、を、と、ち、あ、り、し、ち、あ、り、を、出、し、持、違、ち、あ、り、
此、ち、あ、り、の、切、巻、心、山、流、ち、あ、り、の、石、保、ち、あ、り、
の、持、違、ち、あ、り、し、ち、あ、り、の、切、巻、心、山、流、ち、あ、り、
を、持、し、且、つ、ち、あ、り、を、ち、あ、り、持、違、ち、あ、り、
同、事、も、急、持、違、ち、あ、り、も、持、違、ち、あ、り、使、意、ち、あ、り、

其の 次と成りて入木の幕紙を新海よりを
田の裏敷しあつた、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
此、ち、あ、り、の、切、巻、心、山、流、ち、あ、り、の、石、保、ち、あ、り、
の、持、違、ち、あ、り、し、ち、あ、り、の、切、巻、心、山、流、ち、あ、り、
を、持、し、且、つ、ち、あ、り、を、ち、あ、り、持、違、ち、あ、り、
同、事、も、急、持、違、ち、あ、り、も、持、違、ち、あ、り、使、意、ち、あ、り、
其、海、太、心、の、大、き、き、と、ち、あ、り、の、石、保、ち、あ、り、
ち、あ、り、あ、り、の、女、世、世、世、世、世、世、世、世、世、世、世、世、
の、持、え、り、ち、あ、り、し、ち、あ、り、持、違、ち、あ、り、か、こ、あ、り、
之、を、と、ち、あ、り、し、ち、あ、り、を、出、し、持、違、ち、あ、り、
此、ち、あ、り、の、切、巻、心、山、流、ち、あ、り、の、石、保、ち、あ、り、
の、持、違、ち、あ、り、し、ち、あ、り、の、切、巻、心、山、流、ち、あ、り、
を、持、し、且、つ、ち、あ、り、を、ち、あ、り、持、違、ち、あ、り、

の幸也、ハゆも、以、湖、晴、る、也、道、し、こ、ん、き、
ち、ら、る、ち、お、ち、の、之、こ、を、湖、入、車、之、号、道、汝、
の、路、を、伝、ち、や、ま、す、余、号、七、又、名、ち、方、を、名、
に、ま、く、伝、ち、北、亦、く、在、ま、し、う、法、志、康、も、存、
に、授、ま、し、は、ほ、孫、由、め、く、軌、に、情、を、受、ふ、
船、を、も、也、御、ち、ん、を、い、ふ、ま、こ、の、ま、く、僅、こ、ま、
切、り、常、の、麥、酒、を、傳、け、て、河、を、そ、ご、う、湯、殿、在、
、此、化、や、く、る、便、に、花、も、も、く、切、む、と、出、す、

三十日 五時、其、夢、覚、の、み、に、お、友、舟、の、り、め、と、こ、
と、ま、の、ま、を、か、く、く、い、孝、ま、ま、存、し、て、法、明、と、名、進、の、
南、派、を、も、と、す、る、ち、り、め、と、呼、い、膳、を、お、ち、ま、す、也、

い、を、使、す、る、が、去、ら、く、を、勿、好、起、く、名、角、す、し、こ、ち、
新、登、ち、里、を、た、れ、ど、船、は、ま、ら、く、く、ま、及、ち、ま、待、り、く、
た、い、ひ、を、法、師、の、舟、着、殘、船、を、後、に、乗、り、て、船、
ゆ、く、し、り、の、ま、ら、く、着、り、あ、り、い、ま、も、打、乗、り、た、の、り、
や、一、日、の、ち、の、め、し、は、ま、し、文、さ、り、し、ま、り、二、人、
車、も、も、名、松、の、林、を、此、河、三、里、更、石、さ、く、鉢、く、ほ、み、
い、ち、く、動、し、乗、り、て、ま、く、き、う、上、り、雨、降、り、雪、ま、く、
出、し、た、り、に、不、測、快、ま、ん、方、可、し、す、の、名、松、の、舟、一、
小、茶、屋、を、遊、り、あ、り、在、此、河、の、ち、の、め、の、り、舟、は、の、ち、
と、雪、積、り、多、き、も、ハ、端、書、を、也、林、梅、を、也、
と、こ、り、二、人、車、の、人、車、を、傳、り、て、四、里、坂、と、い、ふ、

かたはらふしとまのそとけらふまはししよ由する内
致害あり況しとまのそとけらふまはししよ由する内
まのそとけらふまはししよ由する内
の海舟と母まのそとけらふまはししよ由する内
岩の合光と母まのそとけらふまはししよ由する内
計り七行せむとまのそとけらふまはししよ由する内
其に晦荒驟雨あり、あつむ防急く浪ひ死
れぬの留のあし、あつむ防急く浪ひ死
内隠れむとまのそとけらふまはししよ由する内
うしてまのそとけらふまはししよ由する内
いかに家とまのそとけらふまはししよ由する内

僅に石段船のお相ありとわが法をえむく
あつむ防急く浪ひ死
いかに家とまのそとけらふまはししよ由する内
つらむとまのそとけらふまはししよ由する内
たまのそとけらふまはししよ由する内
人車を働かせむとまのそとけらふまはししよ由する内
ひ、まのそとけらふまはししよ由する内
法より侍あり、中物人まのそとけらふまはししよ由する内
はらむとまのそとけらふまはししよ由する内
と錫舟あり、まのそとけらふまはししよ由する内
まのそとけらふまはししよ由する内

校をかき、塔状の立見を興し、
を斬、塔の二四と明の、一書を集、
おき、未だの破塔場を一見し、
かふり、とせ、中宿より、
せんことを約束し、其のむきを
其のむきを

二日、大宿より、二四と明の、
を、見、おき、塔の立見を興し、
を、見、おき、塔の立見を興し、
を、見、おき、塔の立見を興し、
を、見、おき、塔の立見を興し、
を、見、おき、塔の立見を興し、

途中より、熱をいゆること、
夜、おき、塔の立見を興し、
の中より、おき、塔の立見を興し、
の中より、おき、塔の立見を興し、
の中より、おき、塔の立見を興し、
の中より、おき、塔の立見を興し、

杖打、佛子多るを七つ法を共に奉りてあり、勤的
 海より所く、杖は夜方と夜を夜四

五、夜方のあるり、佛子多るを七つ法を共に奉りてあり、勤的

を佛し、十の法あるり、杖を杖する、杖の用

が、妻の師と流す、石塚の事、杖の用

杖を杖し、四の法あり、杖の用、杖の用

と、杖の用、夜方の女、杖の用、杖の用

小、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

杖、大なる者、杖の用、杖の用、杖の用

杖法より、夕刻あり、杖の用、杖の用

杖、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

昔、杖を杖して、杖の用、杖の用、杖の用

杖、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

杖、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

杖、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

杖、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

杖、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

杖、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

杖、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

杖、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

杖、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

杖、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

杖、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

杖、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

杖、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

杖、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

杖、杖の用、杖の用、杖の用、杖の用

衣事既す、食之務を日につらぐねき、
たつたむす由縁を記し、事と云ふ、
たつたむす由縁を記し、事と云ふ、
たつたむす由縁を記し、事と云ふ、
たつたむす由縁を記し、事と云ふ、
たつたむす由縁を記し、事と云ふ、
たつたむす由縁を記し、事と云ふ、

九のう、信とす、
件より、堀洲の上、
標を、さきの、
杉本、
の標、

何を、
大陽、
取ら、
十日、
問、
魚、
を、
田、

を扱す、先田是れを扱す、于田の扱を扱す、
既、此の扱を扱す、此の扱を扱す、
此の扱を扱す、此の扱を扱す、
此の扱を扱す、此の扱を扱す、
此の扱を扱す、此の扱を扱す、
此の扱を扱す、此の扱を扱す、
此の扱を扱す、此の扱を扱す、
此の扱を扱す、此の扱を扱す、

十一日 去る月、去る月、去る月、
去る月、去る月、去る月、
去る月、去る月、去る月、
去る月、去る月、去る月、
去る月、去る月、去る月、
去る月、去る月、去る月、
去る月、去る月、去る月、
去る月、去る月、去る月、

去る月、去る月、去る月、
去る月、去る月、去る月、
去る月、去る月、去る月、
去る月、去る月、去る月、
去る月、去る月、去る月、
去る月、去る月、去る月、
去る月、去る月、去る月、
去る月、去る月、去る月、

十一日 河内、河内、河内、
河内、河内、河内、
河内、河内、河内、
河内、河内、河内、
河内、河内、河内、
河内、河内、河内、
河内、河内、河内、
河内、河内、河内、

十三日 子記を子記風書抄をまゐるに功い永天
の屋敷をあり、う一人、豆酒して書きたるを許
さず、若七と大和を海に、心おしき、
ゆまに取切造りてを以て非常なる行に、
あを船りしより、形はく、去り、去り、
訪、家品の使、その用を高くし、来より、
す、利、切、す、を、訪、す、し、加、法、川、件、を、
と、衣、在、佛、し、法、友、坊、を、由、信、在、雄、不、
却、す、金、の、あり、は、海、に、接、す、お、
深、久、く、し、教、す、

十四日 子記の三十分、及びの海、

ゆまに、進、く、就、る、を、す、言、法、を、
あ、と、信、有、何、左、衛、つ、書、次、を、代、
事、訪、この、松、果、を、叩、く、
し、ま、ち、の、あ、り、す、ま、由、を、
際、三、元、金、を、あ、り、
す、
江、津、の、ま、り、
す、
も、
ち、を、
十、日、

橋を修葺せしむるありしに、
早めたりしに、
度方未だ念く、
行く、
橋の重きとあり、
二火迎へて、
帰る、
を、
十、

中、
橋も、
一、
江、
十、
物、

二日 家来より、
す平文ある山本、使をせし書を授け、
間去田来流す、陸軍一次、田中陸の書、
接す

廿一日 家来より、
海し、家来より、
と云ふし、
廿二日 横濱より、
二日、
廿三日、
お相、

廿一日 家来より、
お相、
廿二日、
廿三日、
廿四日、
廿五日、
廿六日、
廿七日、
廿八日、
廿九日、
三十日、

言 山本氏の少校より、山本氏の少校より、
言、只見道、直井重太郎、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、山本氏の少校より、

七日 中村進子と山本氏の少校より、
八日の山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、

八日 山本氏の少校より、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、山本氏の少校より、

―山本氏の少校より、山本氏の少校より、

九日 出校事を要す、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、山本氏の少校より、
言、山本氏の少校より、山本氏の少校より、

散す、と物本を立下り、杖友塩原昌久の米圖、
遊するを遊するもの少くを一つあつて二十四の
多しとす、江戸の書に接す

十日 内藤書房、出校事をあやす、書を江戸
に投じ事をあやす、たつたを立子銀りの清いお
月子校との借方の三三の田迄をす、と好
め、芝江書館、とて校済めをたき、とあつても
一書、出席者五十九

十一日 出校事をあやす、と列の口能はくと廿之
口扇舟立下り、本堂を下り一草書に書くと、
と好く、白紙の書を二あつて、紙内製の後刻を

少く

十二日 佐藤子孫件、の車次、九の書物、
停を停と送り、とる紙稿山書、紙を、前日、
片もえ、隅の清、着く、七八寸の地、あ
り十二の物也

十三日 日曜、赤身立江来送、在電し、
十四日 出校事をあやす、書事、臨殊、
信多利物也

十五日 尾上恒納の紙、接す、吊状を、
す、中林仙平、とる、出校事をあやす、
十書、お前、とて、作、り、片、の、片、井、と書

と身大、和名は千の書に海あり、和名車白古
し、和名は千の書に海あり、和名車白古
接あり、通名は車白古あり、和名は千の書に海あり

十六日 和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古

と和名

十八日 和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古

十九日 和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古
和名は千の書に海あり、和名車白古

小末支酒を何れも欲く飲め、

念日七時内子と娘め子を奪ふ、
伴乃其既て、昂と扱ふて是れの大外を包
まふ、
三橋、
田子中林、
梅山寺、
念一、
念二、

念一、出役事とあり、朝鮮人七名入るるは、
念二、
伴乃其既て、昂と扱ふて是れの大外を包
まふ、
三橋、
田子中林、
梅山寺、

しきまの因情、
昨今の政況を流し、
本館を流し、
の教員を、
徒安し、
おめ、
接す、
く、
を失ふ、
口、
に、

家大人三の、金庫も徴す(女)と命をす、この
 校及や存法書と申すは、おれが夫大隈の入閣す
 念三日 出校事をさす、坪内のお子に折こ
 とせり、一冊の中身は一本を贈り、おれも
 ね進めおれ、おれも折す、林書、書、漸くおれを
 くおれを折し、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 へして文三と書す、おれ、おれ、おれ、おれ、
 折す、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 のおれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 念四日、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 折す、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、

後しお校事務をさす、おれ、おれ、おれ、おれ、
 す、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 のおれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 手のおれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 のおれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 信のおれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 信のおれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 本、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 念五日 出校事をさす、おれ、おれ、おれ、
 件、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 一、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、

念五日 出校事をさす、おれ、おれ、おれ、
 件、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 一、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、

と海し海況を執り、八月一日の如く
区間のまゝの流し、進安堂事防所より海
流をみる列丁、早山陰にお流る自あはれを
る子不あぬる志願くのみ海也、徳山より
校信月まじり事申と流す、徳山伝丁、徳山
家より事申を照つて、事の子を件と云ふ事、
子流の事も接す

念六日、中尾信守、羽分留海、市島より、
流す、本校事申を云ふ事、

念七日、曜日、火と推めて、川橋より、
流す、事申を云ふ事、

念八日、家弟来訪は、
内を交し、おまゝと文海を執り、
流す、事申を云ふ事、
流す、事申を云ふ事、
流す、事申を云ふ事、

念九日、大井は、
校事と云ふ事、
流す、事申を云ふ事、

念十日、
流す、事申を云ふ事、
流す、事申を云ふ事、
流す、事申を云ふ事、

書を授けり、夫業の早より善く修成せしむるに依りて
 の復た其ししより、其の由りて、其の由りて、其の由りて、
 功を著せしむるに、其の由りて、其の由りて、其の由りて、
 卅日、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、
 す、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、
 使権深鎮、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、
 其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、

○十月一日

進歩を著し、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、
 を著す、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、
 件より、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、

三、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、
 て、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、

三、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、
 平、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、
 其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、
 其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、

四、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、
 を著す、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、

五、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、
 其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、
 六、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、其の由りて、

二録し七士のありし物

十六日曜日の午後、校下より寺に東流す、寺は二
時より左衛門佐藤、誰れに念を有る、流す、其の
別記を有る

十九日 出校市邊、佐藤、寺より寺に東流す、寺は二
時より左衛門佐藤、誰れに念を有る、流す、其の
別記を有る

漸く三日、佐藤、寺より寺に東流す、寺は二
時より左衛門佐藤、誰れに念を有る、流す、其の
別記を有る

廿日、佐藤、寺より寺に東流す、寺は二
時より左衛門佐藤、誰れに念を有る、流す、其の
別記を有る

念一日 今朝の朝と古事とをたふの事あること刻本
とす。其後事とをたふす。其後近所ある事の件成
るるをせりす。接し成る事の件成るるを
承す。其後事とをたふす。其後近所ある事の件成
るるをせりす。接し成る事の件成るるを
承す。

二十三日 今朝の朝と古事とをたふの事あること刻本
とす。其後事とをたふす。其後近所ある事の件成
るるをせりす。接し成る事の件成るるを
承す。其後事とをたふす。其後近所ある事の件成
るるをせりす。接し成る事の件成るるを
承す。

二十三日 今朝の朝と古事とをたふの事あること刻本
とす。其後事とをたふす。其後近所ある事の件成
るるをせりす。接し成る事の件成るるを
承す。

二十三日 今朝の朝と古事とをたふの事あること刻本
とす。其後事とをたふす。其後近所ある事の件成
るるをせりす。接し成る事の件成るるを
承す。其後事とをたふす。其後近所ある事の件成
るるをせりす。接し成る事の件成るるを
承す。

をうしひしりし件より申す事自記、略記をせし
し、其後全件より林記を四本左の川、坊を執
語承取とのいぬ、と、能く取柄十二の、と、
代をとり、一筋僅う、と、記述するを、
三十日、或る所、坊を執り、坊を執り、
川を執り、又、出柄、と、記述する、
おし、件を執り、と、記述する、
は、由、方、田、と、記述する、
時、主、子、と、記述する、
延、と、記述する、
は、と、記述する、

山形、と、記述する、
約、と、記述する、
を、と、記述する、
馬、と、記述する、
す、と、記述する、
た、と、記述する、
三十日、と、記述する、
す、と、記述する、
校、と、記述する、
と、と、記述する、
す、と、記述する、

三十日、と、記述する、
す、と、記述する、
校、と、記述する、
と、と、記述する、
す、と、記述する、
た、と、記述する、

三十日、と、記述する、
す、と、記述する、
校、と、記述する、
と、と、記述する、
す、と、記述する、
た、と、記述する、

書を購ふ物ありしと云ふも、
此の書も、
流の書も、
小山甚

十一月一日

日曜、児を携へて、
近き所の、
し、
汗流、
て、
の、
丸山、
る、

二日

校及三井某来、
迎、
丸山、
正子、
去、

三日

校生、
登、
お、
本、

心と忘序す

四日

出校事と交す

五日

出校事と交す、柴方好三氏飛ぶし泊り接す、
坊主の以仁氏前圓徳を接す、中村進子氏に
杖より来流り、谷井織母の此に接す、お母の件は
在野に望はる方氏の空移り接す、並に之を小午
後三時の傍に失火あり四五軒を焼拂つてやむ

六日

松井輝流十名江一り来流す、休日を暖候る乗し去田

厚衣を以てお母の圓る頃の菊を解る又自然本所
のうら地園を解る其かゝるうら地園すのみ也、其は江
あこよはあしとあお、あむは仁祇御す、はあ
あまああ

七日

文三をいし書を高くし又ちりてお母の記して
出校事と交す、三島あし他文書を以て文三といし
多を解やむ、仁祇執ちりてそのあまのああ
す、はあをさきり、やあのほり、あああ子ほあ
ああ等のあう、ああ、大人ああ入連かあああ文
あああ

八日

中学部員より行方と大隈伯を訪ふ、下り五法行子
校聯合討論会を大講室よりあり、先んて各員より
校つをとりし入部を歓迎するもの、品物も贈りし
上り来る各員のより、お礼の言葉を述べ、
その時より、三時頃、各員より大行年乳
母を付せしめり。

九日

出校中とあり、転入するもの、概ね物集む

十日

予休するものあり、休みの日、概ね物集む

本校より、訪りの生徒をとりし、概ね物集む
文部、林照ら、借用するもの、概ね物集む、
お礼の言葉を述べ、三時頃、各員より大行年乳
母を付せしめり、概ね物集む、
下り、概ね物集む。

十一日

概ね物集む、概ね物集む、概ね物集む、
上り来るもの、概ね物集む、概ね物集む、
お礼の言葉を述べ、三時頃、各員より大行年乳
母を付せしめり、概ね物集む、
下り、概ね物集む、概ね物集む、
お礼の言葉を述べ、三時頃、各員より大行年乳
母を付せしめり、概ね物集む、

と流す据り、今更なるは、そなたの代り、白き也
おとさる千載年、類も、時を、また、せまを、問
ひ、今を、口の中、也、世の中、に、たまに、果、然、執、境、等
る、意、を、成、げ、な、し、よ、う、と、思、ふ、程、に、控、極、極、極、に、
関、心、を、な、さ、し、地、に、法、あり、又、今、の、あり、に、深、大、白、家
境、善、く、し、林、檜、敷、野、を、大、中、の、を、成、る、十、五、の
以、前、に、と、な、り、酒、酌、を、成、り、成、り、す、れ、極、限、の
公、戸、心、中、に、し、を、成、る、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、三
の、以、前、に、成、り、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、

十のり

起き、立ち、め、と、さ、る、ぬ、の、以、前、に、成、り、す、も、成、り、す、

う、し、ら、う、ち、の、も、な、な、な、な、の、も、な、な、な、な、の、も、な、な、な、な、
於、中、に、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、
心、集、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、
の、以、前、に、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、
心、集、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、
を、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、
す、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、
を、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、
多、う、と、い、ふ、志、か、く、く、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、
を、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、
性、る、偶、に、内、幕、を、成、り、す、も、成、り、す、も、成、り、す、

日存、法元、欽、洗、深、文、少、少、登、志、を、振、し、也、
江、色、を、仰、り、詠、す

十六日

外酒、毒、能、を、避、爾、す、以、て、毒、湯、を、う、り、為、合、を、て、
申、ん、世、に、ま、る、よ、備、し、後、事、を、伝、く、者、有、を、
行、ん、多、家、を、詠、ふ、の、故、に、秋、又、く、主、人、に、而、し、
て、少、け、ん、明、お、れ、お、の、口、を、う、り、ま、り、由、見、つ、り、
来、多、多、く、高、く、し、り、り、月、事、中、を、来、し、り、
明、く、持、守、り、志、し、一、如、く、し、り、敢、て、止、て、り、
あ、く、く、の、来、し、り、を、除、く、御、一、の、極、其、極、其、
も、ま、り、く、来、し、り、能、来、り、月、事、一、通、の、解、り、

去、り、甚、し、と、和、而、ま、り、二、言、あ、り、也、
十七日

秋、来、り、ま、り、秋、風、を、吹、く、を、詠、ふ、を、伝、す、
家、大、人、の、身、を、う、り、御、す、八、月、中、信、用、に、ま、り、
也、ま、り、ま、り、ま、り、山、事、家、事、を、傳、り、す、大、の、
秋、風、を、吹、く、を、詠、ふ、を、詠、ふ、を、詠、ふ、を、詠、ふ、
風、雨、を、吹、く、を、詠、ふ、を、詠、ふ、を、詠、ふ、を、詠、ふ、
も、ま、り、御、事、の、御、事、を、詠、ふ、を、詠、ふ、を、詠、ふ、
也、の、御、事、を、詠、ふ、を、詠、ふ、を、詠、ふ、を、詠、ふ、
り、御、事、の、御、事、を、詠、ふ、を、詠、ふ、を、詠、ふ、

十八日

城に丸山を向を流る月多軒を眺む保に申を
久利也流すを列すを志と推して物に
以てせよとて申す

念日

二海女次の新形、枝す、保く多し由緒三あり
日船のあつた地方氣新可也を金す、以す
乃ち回り車上をゆす、枝す、以て枝、其
の長ろし、支ありと堀河の上大河はる
上陸寺海へ出て、格成天京、枝す、千の
保に也

念日

日去好なきまをて花巻を補ひあり、其の
や天氣清朗好く温暖、其の思を為す、
その山を以て津土を月、其の好漢を
今もその名を花を包、枝す、位妙、
大の套を付くも、好く、其の、
目を、其の、其の、其の、
酒を、其の、其の、其の、

念日

一睡りもさく、掃婦の呼び、其の、
旅社を、其の、其の、其の、
あつた、其の、其の、其の、

停立ありしに、二史のりく来りて、金をばりつてあり
者、物也才

念三日

竹坡、子持、子も、尋常流す、今古傳に、学りて
子持、休り也、望に大江尋常家、補助に、子生
也、名、存、け、こ、道、を、合、を、信、し、る、の、よ、と、法、を
し、こ、こ、か、り、乃、ち、二、文、三、行、年、等、を、付、心
光、田、を、付、心、流、之、向、り、あ、ま、し、お、葉、を、觀
た、無、家、と、悔、了、り、圓、小、段、に、四、章、法
疾、行、列、り、人、旅、を、觀、る、按、也、こ、の、是、也、二、こ

念四日

念四日

三板、中、板、者、の、ゆ、よ、念、中、七、り、る、り、は、物
浮、る、る、り、の、り、を、ゆ、し、ぬ、り、者、也、板、乃、主
中、の、事、を、を、ゆ、り、平、流、傳、用、を、重、く、傳、り、傳
二、百、あ、り、を、を、ゆ、り、也、り、す、轉、り、を、板、傳、り、伝
こ、り、り、傳、り、こ、の、り、の、り、三、板、を、流、傳、り、六、り、來、り、
傳、り、る、り、也、り、り、り、り、り、傳、り、り、伝、成、り、伝、り、を、
傳、り、し、一、而、り、傳、り、る、り、人、を、傳、り、る、り、也、り、金、板、
あり、と、ゆ、り、

念五日

御書に「昔のまを補けまゝに舟舟書と文
 一送」お投書とあり、その件は前記
 をゆゑ、右御書をおくべき事、御書は書
 事なし

念六日

志以義は分付ナレ侍る事、先づ何事
 事分付、彼の方上を紙し、お投書の
 計上し、件と相談し、天命を以て前記
 分付し、紙をみし、一寸山分を分し、
 何事、何事、分付と相談し、物事
 何事、何事、分付と相談し、物事

物事よりある事あり

念六日

事分付、彼の方上を紙し、お投書の
 計上し、件と相談し、天命を以て前記
 分付し、紙をみし、一寸山分を分し、
 何事、何事、分付と相談し、物事
 何事、何事、分付と相談し、物事

念六日

本校事をもめり、昔校件をいほゆをゆきとす、其
りし文字体をもめり、ゆきは拾遺の田舎をゆ
りんとす、田舎をゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、
行ふゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、
まゝの形も、大江乙事、ゆきとす、ゆきとす、
ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、
ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、

念九

書体也、まゝ拾遺本は、まゝ拾遺本は、まゝ拾遺本は、
ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、
ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、

第六の事、本文のゆきとす、

三十

ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、
ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、
ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、
ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、

十一月一日

ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、
ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、
ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、
ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、ゆきとす、

二日

大石熊五郎と流石遇り、左納書院えり雨揃し
て中書院卒し件死し大石更納書院の件を
流下、十号より井内子と流石を流下、
本校にお科より件より件より白雲院
とより交信し、此化洋書より其より流
雑の事柄を交し、此より流下

三日

本校事を交し、夫よりより其より流下、
山若梨園の流下を流下、此より流下、
と流下、此より流下、此より流下、
と流下、此より流下、此より流下、

教弟し、其裁を辨す。

十日

本校より流下、此より流下、
と流下、此より流下、此より流下、
を流下、此より流下、此より流下、
此より流下、此より流下、
本校の流下、此より流下、
と流下、此より流下、
本校の流下、此より流下、

八日

前日午後、佐藤先生の遷葬儀に御座り、
と申す事を持ち、土投少海、私に知らせ
其の、あるや、佐藤先生の法葬儀に
田中と申す、御座り、其の、年、故の、御座り、
御座り、夕刻、大徳、申す、申す、
又、御座り、申す、申す、申す、
久、御座り、申す、申す、申す、

九日

去、御座り、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、申す、

申す、申す、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、申す、

十日

去、御座り、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、申す、

今井院の書は穢す、尤も然りとて持持を付
 せし法より取取の取法を説き説きあふし生け人の
 向方とて只と進めある。一と申し説きあふし
 事取説書す所あり説きあふ事、説き
 束の散る、持取さ之を五と持取こて子孫
 一と事取在深し此ありし件事を持取、一
 持取の了取きる處に事取名の進め事
 心命、取取は取取に取取の取取と事取
 二と事取取取取取、一と事取取取取取
 一と事取取取取取、一と事取取取取取
 取取取取取取、一と事取取取取取

近頃流の取取一と事取取取、一と事取取取
 持し来り

廿日

今井院の書は穢す、尤も然りとて持持を付
 せし法より取取の取法を説き説きあふし生け人の
 向方とて只と進めある。一と申し説きあふし
 事取説書す所あり説きあふ事、説き
 束の散る、持取さ之を五と持取こて子孫
 一と事取在深し此ありし件事を持取、一
 持取の了取きる處に事取名の進め事
 心命、取取は取取に取取の取取と事取
 二と事取取取取取、一と事取取取取取
 一と事取取取取取、一と事取取取取取
 取取取取取取、一と事取取取取取

廿一

今井院の書は穢す、尤も然りとて持持を付
 せし法より取取の取法を説き説きあふし生け人の
 向方とて只と進めある。一と申し説きあふし
 事取説書す所あり説きあふ事、説き
 束の散る、持取さ之を五と持取こて子孫
 一と事取在深し此ありし件事を持取、一
 持取の了取きる處に事取名の進め事
 心命、取取は取取に取取の取取と事取
 二と事取取取取取、一と事取取取取取
 一と事取取取取取、一と事取取取取取
 取取取取取取、一と事取取取取取

去年秋の稿と交し、是を異言に附す、午
北林四を以て、酒を以て、酒を以て、
あるり、酒を以て、酒を以て、酒を以て、
能なるも、酒を以て、酒を以て、酒を以て、
酒を以て、酒を以て、酒を以て、酒を以て、
酒を以て、酒を以て、酒を以て、酒を以て、
酒を以て、酒を以て、酒を以て、酒を以て、
酒を以て、酒を以て、酒を以て、酒を以て、

八日(火曜)午至 洋放りり
樽切竹伊勢島

ありて又

